

## フロプロピオン 40mg カプセル

**溶出性**〈6.10〉 本品 1 個をとり、試験液に水 900mLを用い、パドル法（ただし、シンカーを用いる）により毎分 100 回転で試験を行う。溶出試験開始 45 分後、溶出液 20mL以上をとり、孔径 0.45  $\mu\text{m}$ 以下のメンブランフィルターでろ過する。初めのろ液 10mLを除き、次のろ液 1mLを正確に量り、0.1mol/L塩酸試液 4mLを正確に加えて、試料溶液とする。別にフロプロピオン標準品（あらかじめ水分〈2.48〉を測定しておく）約 22mgを精密に量り、メタノールに溶かし正確に 50mLとする。この液 2mLを正確に量り、0.1mol/L塩酸試液を加えて正確に 100mLとし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液につき、0.1mol/L塩酸試液を対照とし、紫外可視吸光度測定法〈2.24〉により試験を行い、波長 284nmにおける吸光度  $A_T$ 及び  $A_S$ を測定する。

本品の 45 分間の溶出率が 80%以上のときは適合とする。

フロプロピオン( $\text{C}_9\text{H}_{10}\text{O}_4$ )の表示量に対する溶出率(%)

$$= W_S \times (A_T / A_S) \times (1 / C) \times 180$$

$W_S$  : 脱水物に換算したフロプロピオン標準品の秤取量(mg)

$C$  : 1 カプセル中のフロプロピオン( $\text{C}_9\text{H}_{10}\text{O}_4$ )の表示量(mg)

**フロプロピオン標準品** 定量用フロプロピオン（日局）。